I SSN 0388 — 5569 VOL. 11 No. 3 (通巻33号)

1990.10

# 山口大学附属図書館報

本の虫の悩み	中澤 淳…	··· 1	Ħ	寄贈図書····································	5
平成2年度目録システム講	習会(地域講	習会)		≪お知らせ≫	5
に参加して		3	14	日	5
平成元年度分野別図書貸出	表	4	人	平成元年度図書館統計表	6

rar

## 本の虫の悩み

中澤淳

私は読書家とはとてもいえないが、本そのも のは好きである。新しい本の扉を開く時のある 種の緊張感、古い本を手にした時の安らいだ気 持ちなど、いつの年になっても心地よいもので ある。自らが本作りにか、わるようになってか らは、それに携わる人達の苦労の重さすら感じ るようになった。これは学術雑誌についても同 じことで、新着雑誌の論文の行間にも、審査、 印刷、校正にいたる編集業務に関係した多くの 人達の努力が見えるような気がすることがある。 そのような本や雑誌が沢山収蔵されている図書 館というものは、私にとっては単に勉強や調べ ものをする場所というだけのものではない。古 い医学部分館の屋根裏部屋のような書庫ですら、 心地よい安定した気持ちを反芻することができ る恰好の場所であった。2年前に完成した新し い分館は、さらに明るく広くて、快適である。

私は1利用者として、幸せな気分で過ごさせ てもらっていたのである。

ところが、昨年10月に分館長を仰せつかって 以来、利用者としての楽しみが責任者としての 苦しみの方へと変わってしまった。最大の難問 は外国雑誌購入費の急騰であった。医学部分館 では外国雑誌を約4,300万円買っているのであ るが、次年度には10%を越える赤字が予想され るということであった。聞いてみると、1 昨年 10月には為替レートは1ドル125円であったのが、1年後には144円と20%近く円安になっていた。また、これに加えて雑誌の年間購読料が平均5-6%上昇すると予想されたのである。結局は、学部内の予算調整とか、分館の運営費の節約などにより、購読雑誌数はそのま、でとは2年度まで進めるということになり、しかし、円安はともかくとしても、雑誌の単価値上がりは避けがたく、逼迫した予算の状態は今後決して改善されることはないと思われる。医学部では、平成3年度に向けて外国雑誌の利用調査を行い、利用頻度の低いものの購入中止の方向で検討せざるをえなくなった。

それにしても、ここ数年の自然科学系、特に生物系の雑誌の発展ぶりには目をみはるものがある。私が関係してきた雑誌(Geneと J. Biochem.)でもこの2年間に中版のものが大きな版へ変わった。既に大版になっていたものでも、例えば米国生化学会誌 J. Biol. Chem. は発行回数を月3回に増やしている。米国の友人がそのEditorの一人であるが、年間600編ほどの論文が送られて来るという。そのようなEditorが他にも11人いるのだから、投稿論文数は莫大なものである。その一方で、新しい雑誌が近年続々と創刊されている。Nature誌では

毎年9月ごろ、その前年にスタートした自然科 学誌の書評を掲載しているが、毎年50件ほどの 評論が紹介されている。それとは、同数の新し い雑誌が評価のため編集部へ送り付けられてい るというのであるから、毎週2つずつ位は学術 雑誌が世界のどこかで誕生していることになる。 (ある人によれば、毎日1つずつであるともい う)。これは1つには出版社の商業主義に原因 があるのだろうが、それをささえるだけの論文 数の増加が基礎にあるのだと思う。先進諸国で の研究人口はこの10年間増加の一途をたどって いるが、開発途上国でも今後研究投資が拡大す ることが考えられ、この傾向には益々はずみが つくであろう。このような中にあっては、科学 者は論文発表にさいして、必要事項のみを簡潔 に記載し、決して冗長な論文やこま切れの論文 を作らないよう最大の努力を払うべきではなか ろうか。人事の選考や研究費の審査の時に、内 容を評価するよりは論文数が問題になるという 風潮を科学者自らがいましめなければならない と思う。そうしなけば、ますます出版資本の利 潤追及の犠牲となり、自分の首を締めるという ことになって行くであろう。

とはいうものの、現実には大浪のように押し寄せてくる学術雑誌の文献洪水を無視するわけにはいかない。とにかく論文題目を通覧するだけでも大変である。昔のように新着雑誌を手にとって1頁ずつ広げて行くことは、もはや限られた雑誌についてしかできなくなっている。Current Contentsのような、論文題目のみをリストにした雑誌が不可欠となって来た。現在医学部分館ではそのDisket版を備え付け、好評をえている。今後この種の情報サービスは他社も参加して来て多彩なより利用しやすいものになって行くことが予想される。

ところで、そのようにして選んだ論文の中味を読もうとした時、図書館にそれが備わっていない時は学外に文献コピーを依頼しなければならない。医学図書館に関しては、現在阪大をセンター館とし、九大、東北大を地区拠点館とし、これらの図書館では世界の医学生物学の学術雑誌を網羅するという体制ができている。最近はファックスの性能も向上したので従来の郵送法よりははるかに容易に文献のコピーを入手する

ことができるようになっている。そこで次に問 題になるのは、図書館が何を購入し、何を購入 しないかをどのような基準で決めるかというこ とであろう。私はこれに関しては、現在利用し ている人達を主体として決めるということだと 思っている。「大学の見識としてこの雑誌はた とえ読む人がいなくてもとっておかねばならな い」というような時代は去ったと考える。綿密 な利用度調査を行って、利用度の低いものと購 入要望の高いものを入れかえるという操作が必 要であろう。新しい雑誌の中にも重要なものが 出はじめている。また大学人には結構入れ替わ りがある。利用者を主体とすると購入雑誌に一 貫性を欠くことになるかも知れないが、これも ある程度は仕方ないことではないかと思う。学 問の世界そのものが音を立てて流れているかの 如き時代ではやむをえないことではなかろうか。

学術雑誌のもう一つの課題はコンピュータ化の問題であろう。現在でも既に1部の雑誌はフロッピーディスクで、原稿を受け付けている。

出版社では印刷の段階はコンピュータ化され ていると聞く。すべての論文がコンピュータに 記録されたならば、雑誌の形にしなくても、そ の内容を電子メールによりまとまった形で供給 し、図書館でそれを利用者に"閲覧"させるこ とも可能ではなかろうか。電子図書館である。 そこへ行かないまでも、既に一部では本や雑誌 のCD-ROM化が進行している。 医学部分館で もExcerpta Medicaの古いものはCD-ROMと しても供覧している。CD-ROMがすべての学 術"雑誌"にとってかわるということはないに しても、今後益々その比率は増加すると思われ る。テクノロジーの開発とその熱心な利用は驚 くべき速さで我々を襲ってくる。その一方、人 間の身体の方は、脳の働きも含めてそれほど進 化したようには思えない。私にしてみても、従 来から紙の上に二次元的に展開された文字を追 うことに慣れていて、コンピュータのディスプ レイの画面の文字では、じっくりと読んで考え ることが仲々難しい。結局はCD-ROMであっ ても電子メールであっても、プリントアウトし て読むことになってしまうのではなかろうか。 そうなってくると現在の印刷物の方が私には使 いやすくなる。雑誌を手にしてみると、視覚的

なパターン認識の助けを借りて、人間の頭を働かせやすいように、実に巧みにコンパクトに仕上がっていることに改めて感心させられるのである。

私の家には先祖代々使っていた医学の本がある。徳川時代のものは勿論和紙で出来ていて、 これにはシミという本の虫が食い歩いた迷路の ような孔がついている。ところが、明治以後は本が洋紙になったため、シミは興味を失ったらしく、孔は全くない。シミも困ったに違いない。 医学の本がCD-ROMに変わって行くと、これまでの本になじみのある本の虫はやはり当惑するのである。

(医学部分館長)

## 平成2年度目録システム講習会(地域講習会)に参加して

学術情報センターと広島大学附属図書館の共催で、7月31日から8月4日までの5日間、広島大学総合情報処理センターにおいて開催された「平成2年度目録システム講習会(地域講習会)」に参加しました。

中四国の大学図書館目録業務担当職員、30名ほどの参加で、この中には既に、毎日の仕事として目録システムを利用されている方もありました。しかし、私は、前勤務先(宇部工業高等専門学校)において、NACSIS-IRを少々利用したという程度で、目録という情報を提供する側に立とうとは夢にも思っていませんでした。

講習会第1日目には「目録システム概論」、 「目録情報の基準」の講義が行われ、第2日目 からは、IBMの端末機を使用しての実習でした。

本学からの岡田隆講師を初め、8名の講師の 方が、受講者4人に1人くらいの割合で、丁寧 に指導され、なんとかNCにヒットさせること ができ、ほっとしたりもしました。

皆、実習となると暑さも、眠さもどこへやら で、時間を忘れて熱中しました。講師の方の、 『ディスプレーとのにらめっこばかりだと目が 疲れるから、少し休んでください。』との言葉 も聞き流しながらの奮戦ぶりでした。

5日間が、あっという間に過ぎ、これで自館 に帰って本当に業務としてやれるのかな、とい う不安を残しながら、終了証書を手にしました。

目録の登録における第1の留意点は、決して 重複レコードの作成をしないこと、それにはあ らゆる角度から、既に登録されているレコード を検索してみなければならない、さらに当然で すが、正確な情報を提供しなければならない、 と2点が力説されたことを思いだし、ディスプ レーに向かっても、安易な登録はできないと、 つくづく感じている次第です。 また、共同利 用が目的であるために、責任感がずしんと背中 にのしかかってきたように感じております。

しかし、本学には既に熟達された方が多くおられますので、今後ともよろしく、ご指導くださいますようお願いして、講習会参加報告とさせていただきます。

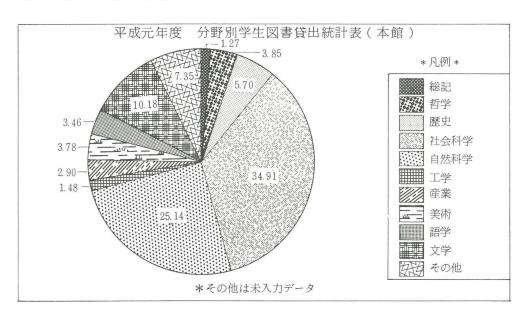
(医学部分館閲覧係 藤 本 房 枝)

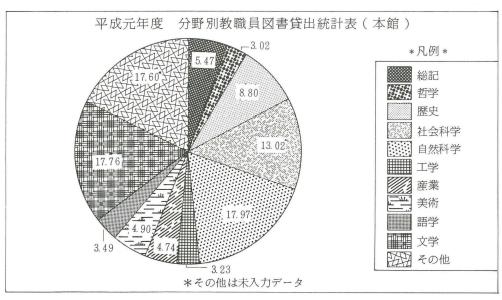
# 平成元年度分野別図書貸出表

下の二つの円グラフは、平成元年度に本館で貸出した図書をNDC(日本十進分類法)の分類で表したグラフです。

学生は46,766冊、教職員は、1,920冊の貸出した図書を比率(%)で表したものです。教官研究室へ長期貸出した図書は、23,875冊ですが、このグラフの中には含めていないことをお断わりしておきます。

なお、グラフは凡例の総記、哲学、歴史、以下その他までを右廻りで表わしています。 又、その他とは、書庫の図書で、コンピュータに未入力の貸出図書です。





#### 寄贈図書

(本館)

末 松 壽 (人文学部教授)

『パンセ』における声 末松 壽著 九州大学出版会 1990

村 上 勝 三 (人文学部助教授)

デカルト形而上学の成立 村上 勝三著 勁草書房 1990

柴 田 勝 二 (人文学部助教授)

閉じられない寓話:現代文学論 柴田 勝二著 沖積舎 平成2

加 藤 宏 文 (教育学部助教授)

高等文章表現指導の探究 加藤 宏文著 溪水社 昭和58

高等学校私の国語教室:主題単元学習の構築 加藤 宏文著 右文書院 昭和63

(教え方叢書)

奥 和 義(経済学部講師)

日本経済史 5 岩波 1990

内容:産業化の時代 下 西川 俊作・山元 有造編

#### <お知らせ>

CD-ROM、CCODの検索サービス開始について

本館では、6月19日 (火) からCD-ROM (Compact Disc Read Only Memory) 及びCCOD (Current Contents On Diskette) 検索サービスを開始しております。この検索サービスは、利用 者が直接パーソナル・コンピュータでデータベースを検索することができ、利用料金は不要です。

利用方法については、参考カウンター(内線788) にお問い合わせください。

#### <利用時間>

平 日 9:00~17:00

十曜日

9:00~12:00

<利用できるデータベース>

- \* J-BISC (国立国会図書館所蔵の書誌情報) 1984~
- \* 学術雑誌総合目録(逐次刊行物の書誌、所蔵情報) 1989
- \* 国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録 1988年版
- \* Current Contents; Life Sciences 1990, 7~

#### 日誌

- 6月4日(月) 平成2年度国立大学附属図書館事務部課長会議(東京医科歯科大学)
- 6月27日(水) 山口大学公開説明会(高等学校教論)
- 6月28日(木)~29日(金) 第37会国立大学図書館協議会総会(熊本、産業文化会館)
- 7月12日(木) 第56回附属図書館運営委員会
  - ッ 第28回本館図書委員会
- 7月21日(土) 山口大学公開説明会(高等学校生徒図書館見学)
- 7月24日(火) 工学部分館図書委員会
- 8月6日(月)~10日(金) 平成2年度蔵書点検
- 8月22日(水)~24日(金) 第25回医学図書館員研究集会(京都)
- 8月29日(水) 医学部分館図書委員会

## 平成元年度図書館統計表

### I 蔵書数(平成2年3月31現在)

- /HV H //	194 11 204 (1774 - 1 0 / ) 0 = 2/4 [2]										
区 分	2	图 書 (冊数)		雑 誌 (種類数)							
	和	洋	計	和	洋	計					
本 館	709,320	273,984	983,304	8,099	3,431	11,530					
医学部分館	73,795	66,065	139,860	1,226	1,155	2,381					
工学部分館	75,624	46,613	122,237	1,364	1,246	2,610					
計	858,739	386,662	1,245,401	10,689	5,832	16,521					

## Ⅱ 年間受入数

区分			[ <del>)</del>	引 書 (冊数)		雑 誌 (種類数)				
		7.	J.	和	洋	計	和	洋	計	
人	文	学	部	4,112	1,276	5,388	235	181	416	
教	育	学	部	3,558	763	4,321	379	252	631	
経	済	学	部	4,321	1,947	6,268	1,288	642	1,930	
理	学		部	189	759	948	45	211	256	
農	学		部	559	616	1,175	86	115	201	
教	養		部	3,479	2,256	5,735	202	344	546	
学生	主 相	談	所					5	5	
保健	きせこ	/ 夕	_	36	4	40	10	2	12	
埋蔵	文化則	<b> </b> 資料	1館				8		8	
本			館	3,805	1,042	4,847	2,090	407	2,497	
小			計	20,059	8,663	28,722	4,343	2,159	6,502	
医当	学 部	分	館	2,167	2,470	4,637	840	757	1,597	
工当	学 部	分	館	1,881	1,449	3,330	715	532	1,247	
合			計	24,107	12,582	36,689	5,898	3,448	9,346	

### Ⅲ 利用統計

ш	.1.07	11 45611										
区 分	開館日	数(日)	子) 入館者数(人)		人)	館外有	节出者数 (	人)	館外帯出冊数 (冊)			
	73	時間内	時間外	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計
本	館	288	191	214,088	40,222	254,310	25,151	5,618	30,769	44,867	1,1,330	56,197
4	吕	—H	平均	743	211		87	29		156	59	
医学	学部	293	260	31,299	23,662	54,962	11,171	7,867	19,038	23,137	15,095	38,232
分	館	一日	平均	107	91		38	30		79	58	
工	学部	288	192	79,679	20,528	100,207	7,490	2,983	10,473	13,586	5,051	18,637
分	館	—H	平均	277	107		26	16		47	26	

#### Ⅳ 文献複写(件数)

11 /11/12 3	7113	/ /								
17	. ^		学 内 者			学外者	他大学等			合計
X		分	私費	公費	小計	私費	私費	公費	小計	ПЫ
	本	館	1,033	236	1,269	228	510	817	1,327	2,824
電子式複写	医学	部分館	3,461	9,469	12,930	8,068	1,575	1,442	3,017	24,015
工学部		部分館	105	15,369	15,474	259	58	752	810	16,543
	合	計	4,599	25,074	29,673	8,555	2,143	3,011	5,154	43,382
印画引伸	本	館	0	0	0	0	0	0	0	0

編集 発行 山口大学附属図書館 〒753 山口市大字吉田1677−1 ☎ (0839) 22−6111 内線788